

次期久留米市環境基本計画 策定基本方針について

久留米市

久留米市環境基本計画

- 環境基本条例に基づき、
良好な環境の保全・創造に関する施策を総合的・計画的に推進
- 市の総合計画を環境面から総合的に推進し、環境分野の個別計画
や施策の指針となるもの

第三次久留米市環境基本計画（2020年3月策定）

- 市民・事業者と連携しながら環境政策の取り組みを推進

計画期間	2021(R3)年～2025(R7)年
めざす姿	自然と人間とが共生し、持続的な発展が可能な都市
目標・視点	●脱炭素社会の構築 ●循環型社会の構築 ●自然共生社会の構築 ●快適な生活環境の保全 ●協働による持続可能な地域社会づくり
重点テーマ	●脱プラスチックへのチャレンジ ●久留米版エネルギー循環モデル へのトライ ●学び・協働・交流のプラットフォームづくり

環境や社会情勢の変化

◆環境問題の複雑化・深刻化

- 集中豪雨や猛暑などの気象災害が国内外で多発、生態系にも影響
久留米市においても、ここ5年で4度の水害被害
- プラスチックごみや食品ロス等の問題の顕在化

◆地球規模の環境危機への対応

- カーボンニュートラル、ネイチャーポジティブ、サーキュラーエコノミー等の
新たな目標、取り組み



◆計画期間の満了(～2025年度)



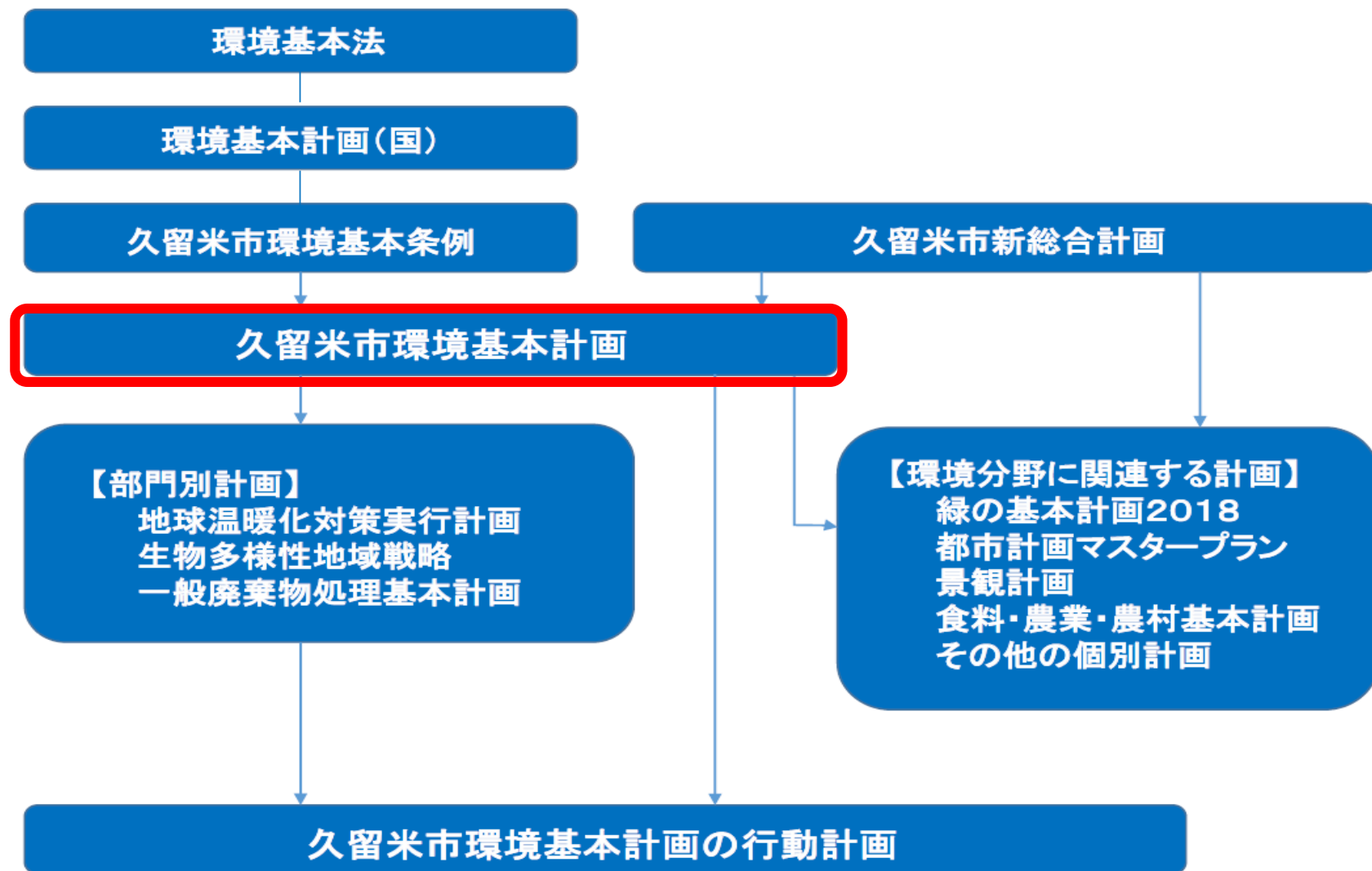
時代の趨勢を見据えた新たな指針づくりが必要



次期環境基本計画の策定

時代潮流を的確にとらえ、
国の政策と連動した施策の推進と
協働の深化による更なる環境配慮活動促進を図る

計画の位置づけ



第三次環境基本計画

環境基本計画の推移

第一次計画 (2000-2010)

「持続的発展が可能な
環境共生都市・久留米」

- ①健康で文化的な
快適環境の創造
- ②自然と人間との共生の確保
- ③循環型社会の実現
- ④地球環境保全に配慮した
まちの実現
- ⑤全ての主体の参加による
環境共生都市の実現

第二次計画 (2011-2020)

「環境先進都市 ずっと
暮らしたい心地よいまち
グリーンエコシティくるめ」

- ①低炭素社会の構築
- ②循環型社会の構築
- ③豊かな自然環境の保全と共生
- ④快適な生活環境の保全
- ⑤市民環境意識の向上と
協働の促進

第三次計画 (2021-2025)

「自然と人間とが共生し、
持続的な発展が可能な
都市・久留米」

- ①脱炭素社会の構築
- ②循環型社会の構築
- ③自然共生社会の構築
- ④快適な生活環境の保全
- ⑤協働による
持続可能な地域社会づくり

第三次環境基本計画

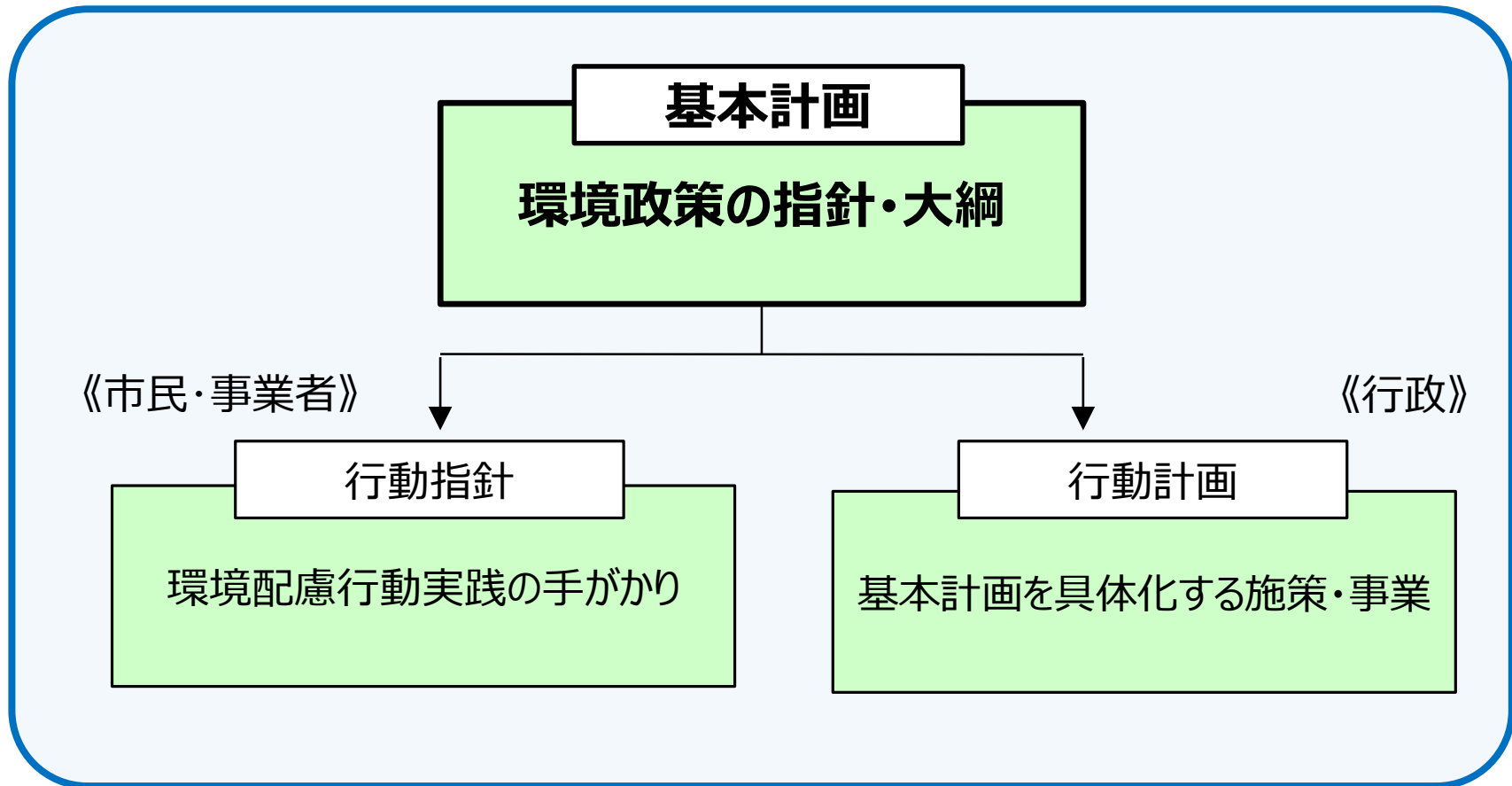
概要

項目	内容
めざす環境像	自然と人間とが共生し、持続的な発展が可能な都市・久留米
めざすまちの姿	市民や事業者などすべての主体が高い環境意識を持ち、自ら取り組み、連帯して行動するまち（環境先進都市）
計画期間	5年間（2021～2025年度）
基本目標と共通の視点	【基本目標①】 脱炭素社会の構築 【基本目標②】 循環型社会の構築 【基本目標③】 自然共生社会の構築 【基本目標④】 快適な生活環境の保全 【共通の視点】 協働による持続可能な地域社会づくり
重点テーマ	●脱プラスチックへのチャレンジ ●久留米版エネルギー循環モデルへのトライ ●学び・協働・交流のプラットフォームづくり

第三次環境基本計画

構成

広義の基本計画



次期環境基本計画の概要

名称	(仮称)第四次久留米市環境基本計画										
対象とする分野	身近な環境から地球環境まで幅広い意味での環境 <table><tr><th>分野</th><th>対 象</th></tr><tr><td>地球環境</td><td>気候変動、エネルギーなど</td></tr><tr><td>資源循環</td><td>廃棄物、リサイクルなど</td></tr><tr><td>自然環境</td><td>森林、農地、河川、生態系など</td></tr><tr><td>生活環境</td><td>大気、水質、騒音、振動、悪臭、化学物質、美化、緑化、自然景観、都市景観、文化的景観など</td></tr></table>	分野	対 象	地球環境	気候変動、エネルギーなど	資源循環	廃棄物、リサイクルなど	自然環境	森林、農地、河川、生態系など	生活環境	大気、水質、騒音、振動、悪臭、化学物質、美化、緑化、自然景観、都市景観、文化的景観など
分野	対 象										
地球環境	気候変動、エネルギーなど										
資源循環	廃棄物、リサイクルなど										
自然環境	森林、農地、河川、生態系など										
生活環境	大気、水質、騒音、振動、悪臭、化学物質、美化、緑化、自然景観、都市景観、文化的景観など										
構成と期間	●基本計画と行動計画で構成 ●5年間(2026～2030) ※国の環境基本計画や市の総合計画と整合										

計画策定の視点①

●上位計画との整合

…国の環境基本計画や市の次期総合計画と整合

●環境政策の成果を継承

…現計画の骨格を維持しつつ、新たな課題等に対応

●政策の統合的推進

…個別分野の環境政策を統合的・横断的に取り扱い、相乗効果を発揮させ、地域経済の課題解決にも結びつける

計画策定の視点②

●行動変容のさらなる推進

…市民・事業者の前向きで主体的な意識変革や行動変容を促すことで、ライフ・ビジネススタイルの転換を図る

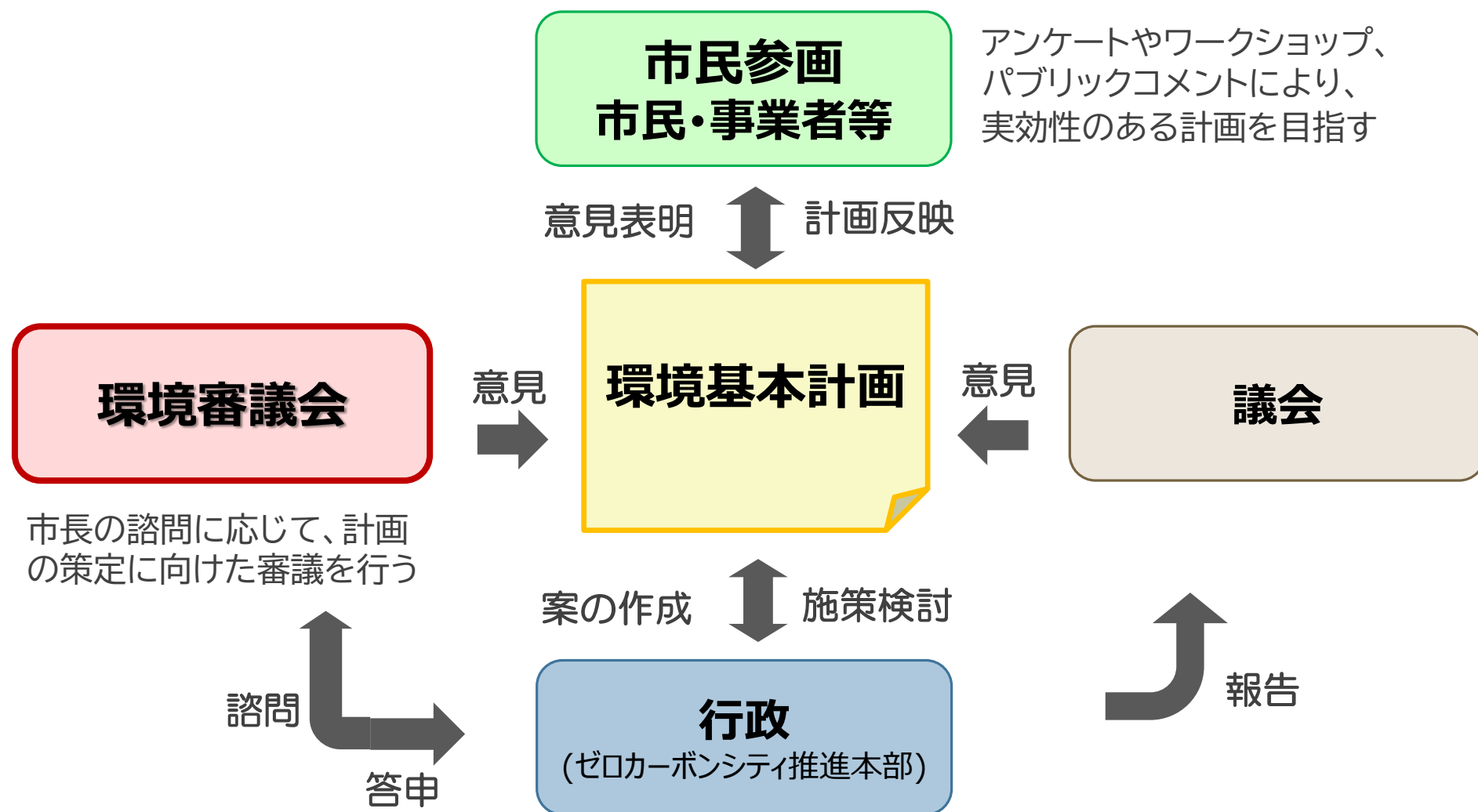
●協働の深化

…多様な主体の参加によるパートナーシップを前提とした効果的な協働の仕組みづくりを通じて、持続可能な取組体制を構築する

●SDGsの反映

…SDGsの考え方を最大限反映した計画づくりを行う

計画策定体制



スケジュール

令和7年 5月	<u>環境審議会</u> (諮問)
〽	市民等の意見聴取(ワークショップなど)
8月	<u>環境審議会</u> (素案)
12月	<u>環境審議会</u> (原案)
令和8年 1月	パブリックコメント
3月	<u>環境審議会</u> (答申)

参考：これまでの取り組み(中間総括)①

まちの姿指標

成果指標	基準値 (2019年度)	実績 (2023年度)	目標 (2025年度)
日常で環境に配慮した取り組みをしている市民の割合	80.3%	82.2%	85%

今後の方向性

- ・ 環境配慮活動の実践によるライフ・ビジネススタイルの転換と定着
- ・ 啓発手法や活用媒体等の見直しや多様化
- ・ 市民や事業者等及び行政とが協働し取り組める環境整備

参考：これまでの取り組み(中間総括)②

脱炭素社会の構築

成果指標	基準値 (2019年度)	実績 (2023年度)	目標 (2025年度)
久留米市の 温室効果ガス排出量の削減	2,547t-CO ₂ (2013年度)	1,713t-CO ₂ (2021年度)	1,273t-CO ₂ (2030年度)
再生可能エネルギーの導入量	107,894kW (2019年度)	125,824kW (2023年度)	219,000kW (2030年度)

今後の方向性

- ・ 啓発や情報発信の強化
- ・ 脱炭素経営支援や建物の脱炭素化の重点的推進
- ・ 民間部門における再生可能エネルギー導入拡大に向けた環境整備

参考：これまでの取り組み(中間総括)③

循環型社会の構築

成果指標	基準値 (2019年度)	実績 (2023年度)	目標 (2025年度)
市民一人一日あたりのごみ排出量	919g	884g	888g



今後の方向性

- 多様な手法による啓発事業の継続
- I C Tの活用、より多くの事業者との協働の仕組みづくり
- 循環経済への移行に向けたネットワーク強化

参考：これまでの取り組み(中間総括)④

自然共生社会の構築

成果指標	基準値 (2019年度)	実績 (2023年度)	目標 (2025年度)
生物多様性の認知度	26.9%	27.9% (2022年度)	60%

今後の方向性

- ・ 自然環境保全活動への支援の継続
- ・ 活動の広報強化や交流・人材育成を促す機会の充実
- ・ 生物多様性についての理解促進に向けた発信力の強化

参考：これまでの取り組み(中間総括)⑤

快適な生活環境の保全

成果指標	基準値 (2019年度)	実績 (2023年度)	目標 (2025年度)
周辺環境の満足度	53.9%	69.8% (2022年度)	60%



今後の方向性

- ・ 環境法令の規制等の遵守の指導や調査の確実な実施
- ・ 啓発イベント参加者へのグリーンパートナー登録への誘導等の強化

参考：これまでの取り組み(中間総括)⑥

協働による持続可能な地域社会づくり

成果指標	基準値 (2019年度)	実績 (2023年度)	目標 (2025年度)
くるめクリーンパートナー 登録者数	21,899人	21,648人	23,000人

今後の方向性

- 啓発イベントや動画をきっかけとした、動機形成から実践へステップアップする仕組みづくりの検討
- 市民活動団体等との連携による、人材発掘・育成のネットワークづくり

参考：これまでの取り組み(中間総括)⑦

重点テーマ:脱プラスチックへのチャレンジ・プラスチックフリー&グリーン運動

成果指標	基準値 (2019年度)	実績 (2023年度)	目標 (2025年度)
使い捨てプラスチック製品の使用削減に積極的に取り組む市民の割合	13.6%	20.4%	35%

今後の方向性

- ・ 協働の強化と実践を促す取り組みの継続
- ・ ライフスタイルやビジネススタイルの転換や行動変容促進の視点からの事業展開の検討

参考：これまでの取り組み(中間総括)⑧

重点テーマ：久留米版エネルギー循環モデルへのトライ

成果指標	基準値 (2019年度)	実績 (2023年度)	目標 (2025年度)
ZEB化施設数(市有施設)	1棟 (2020年度)	3棟	8棟
ZEB化施設数(民間建築物)	1棟	3棟	6棟

今後の方向性

- ZEB化ノウハウの共有や事業者との連携及び既存オーナーとの協働による情報発信等の強化
- 再エネ普及状況を踏まえたエネルギー循環の仕組みづくりの研究

参考：これまでの取り組み(中間総括)⑨

重点テーマ：学び・協働・交流のプラットフォームづくり

成果指標	基準値 (2019年度)	実績 (2023年度)	目標 (2025年度)
環境啓発ページへのアクセス数	77,784回	130,464回	160,000回



今後の方向性

- 多様なニーズに対応できる交流の仕組みづくりによる協働の深化
- 多様な主体が参加するパートナーシップ型の取組体制の構築

参考：これまでの取り組み(中間総括)⑩

まとめ

- 市民の環境に配慮した取り組みは順調に増加
 - 多くの成果指標が目標達成見込み
 - 一部の指標はさらなる努力が必要だが、今後の施策強化により目標達成は可能
 - 国の環境政策の基本方針に変更はなく、現行計画の枠組みは引き続き有効
- 
- 施策の方向性の大枠は維持し、目標達成に向けて事業の見直しを行いつつ、国の政策動向や市の総合計画の方向性を踏まえ、次期計画における施策展開につなげていく必要がある